

きらめく 津山人

かやぶ
茅葺き職人

山本 進 さん (加茂町公郷)

県内で数人しかいない茅葺き職人として、日本古来の伝統的な技法を受け継ぎ、今に伝える。沼弥生住居址群に復元された竪穴式住居や、衆楽園の余芳閣・風月軒などの茅葺き屋根の葺き替えを手掛ける。平成28年5月に、津山市文化連盟が地域の文化・芸能の分野で活躍する個人や団体に贈る「くすのき賞」を受賞。現在76歳。



山本さんが手掛けた茅葺き屋根



茅葺き作業中の山本さん



茅葺き職人になったきっかけは？

もともと、伯父や父が茅葺き職人だったので、子どもの頃から大人になったら跡を継がないといけなかなと思っていました。普段の暮らしの中で、父から茅葺き技術の素晴らしさや伝統を守る大切さを教わっていたので、中学校を卒業後、自然と茅葺き職人の道を歩み始めました。

茅葺き職人を続けてきた理由は？

茅葺き屋根は年月とともに朽ちてしまうので、20~30年ごとに葺き替えが必要なのですが、昭和30~40年代になると茅葺き屋根にトタンを被せる家が増えたため、茅葺きの仕事が激減し、転職をしようと考えたこともありました。

しかし、茅葺き屋根が傷み、雨漏りで困っている人から修理を依頼されることがあり、その人たちの役に立ちたいという思いと、伝統を伝えるという使命感で続けていくことができました。

茅葺き屋根の魅力は？

通気性と断熱性、湿気の調節機能に優れているため、室内が夏は涼しく、冬は暖かく、梅雨の時期にはカビの発生を抑制するなど、四季を通じて快適に過ごせることが魅力です。

また、葺き替え直後は、太陽の光を受けると屋根が黄金色に輝き、美しく神秘的に見えることも魅力ですね。

津山の皆さんにメッセージを

茅葺きの伝統を後世に残すため、全国各地にある茅葺き屋根の建物の模型を製作するなど、茅葺きの魅力を多くの人に広めていきたいです。また今後も、茅葺き屋根を残したいと思う人がいる限り、その気持ちに応えていきたいと思えます。そして、先人から伝えられてきた歴史に敬意を払いながら、後世に伝えていきたいです。

◆ 新春座談会やきらめく津山人、ふおとるほなどの取材を通して、津山にもキラリと光る才能や特技を持つ人たちがたくさんいて、とてもうれしく思いました。皆さんの日々の努力を見習って、新年から体力づくりに取り組もうと思えます！ フットワークが軽くなって取材に役立つと良いなあ。(笑)

◆ 先日、生まれて初めて杵で餅をつきました。思っていたよりも大変な作業で、普段、トレーニングやスポーツをしていないわたしは1日つくだけで手にマメができてしまいました。2回目、3回目の餅つきで腕の筋肉が痛くなりました。表紙写真のように笑顔で餅つきができるようになりたい。(雨)

◆ 平成28年は皆さんにとってどんな年でしたか？ わたし自身、日々の忙しさの中で漫然と過ごしてしまった感覚があり、反省です。平成29年はどんな年にしたいか。家族の健康と安全、子どもの健やかな成長、夫婦円満。どれも当たり前のように当たり前でないこと。本年もよろしくお願いします。(W)

